

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
浜池遺跡

2024

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

浜池遺跡発掘調査報告

調査の経過 浜池遺跡は豊橋市西幸町浜池に所在する。発掘調査は、県道405号小松原街道線の街路改良工事に伴う事前調査として愛知県民文化局を通じた委託事業である。調査面積は100㎡、調査期間は令和5年7月25日～8月16日である。調査担当は当センター調査課の樋上 昇（主任専門員）と田中 良（調査研究主事）である。遺跡の位置は、北緯34度43分25秒、東経137度24分12秒である。県遺跡番号は791411、県埋文遺跡記号は4THIである。調査では表土・遺構掘削を橋本技術（株）が行い、測量も同社が行った。遺構検出と土層観察、写真撮影は田中が行った。なお本書の編集は田中が行った。

地理的環境 遺跡は豊橋市の東南部に位置し、三河湾へ西流する梅田川右岸の河岸段丘上に立地する。梅田川の河道は比較的最近まで蛇行しており、地割などにその痕跡がみられる。梅田川は、豊橋市と静岡県湖西市の県境となる弓張山系の山地に源を發し、三河湾へとそそぐ二級河川である。梅田川の北側には中位段丘面の高師原面があり、豊川によって運ばれ堆積した高師原礫層からなるいわゆる「三万年段丘」である。この段丘は、温暖な気候化で堆積したため、土壌中の鉄分が酸化して赤色風化をおこしている。そのため、この台地は酸性土壌となり、木の根に酸化鉄が付着した「高師小僧」が多量に出土し、名称の由来地であるため、愛知県の天然記念物に指定されている（岩瀬1996）。

周辺の遺跡 遺跡のある西幸町は、梅田川の中流域にあたり、縄文時代から中世の遺跡や灰釉陶器窯の多い地域である。桜遺跡は、縄文時代前期～晩期の各時期に渡る遺物が出土し、長期的に集落が営まれたとされている。古代では、灰釉陶器の古窯が多く分布しており、一大生産地を形成している（岩瀬1996）。

【参考文献】

岩瀬彰利 1996 「百々池B古窯」
『百々池B古窯・東田遺跡(Ⅱ)』
豊橋市埋蔵文化財発掘調査報告書第32集
豊橋市教育委員会

小坂延仁 2023 「浜池遺跡」
『愛知県埋蔵文化財試掘・確認調査報告書』
愛知県埋蔵文化財調査センター



図1 浜池遺跡の位置（1/2.5万「豊橋」に加筆）



図2 浜池遺跡周辺の遺跡分布（1/2.5万「豊橋」に加筆）



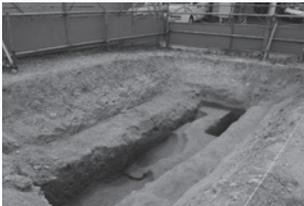
調査前風景 (南から)



表土掘削 (23B区、南東から)



遺構検出 (23B区、南西から)



遺構完掘 (23B区、北西から)



遺構完掘 (23A区、北東から)



遺跡遠景 (西から)



調査完了状況 (北から)

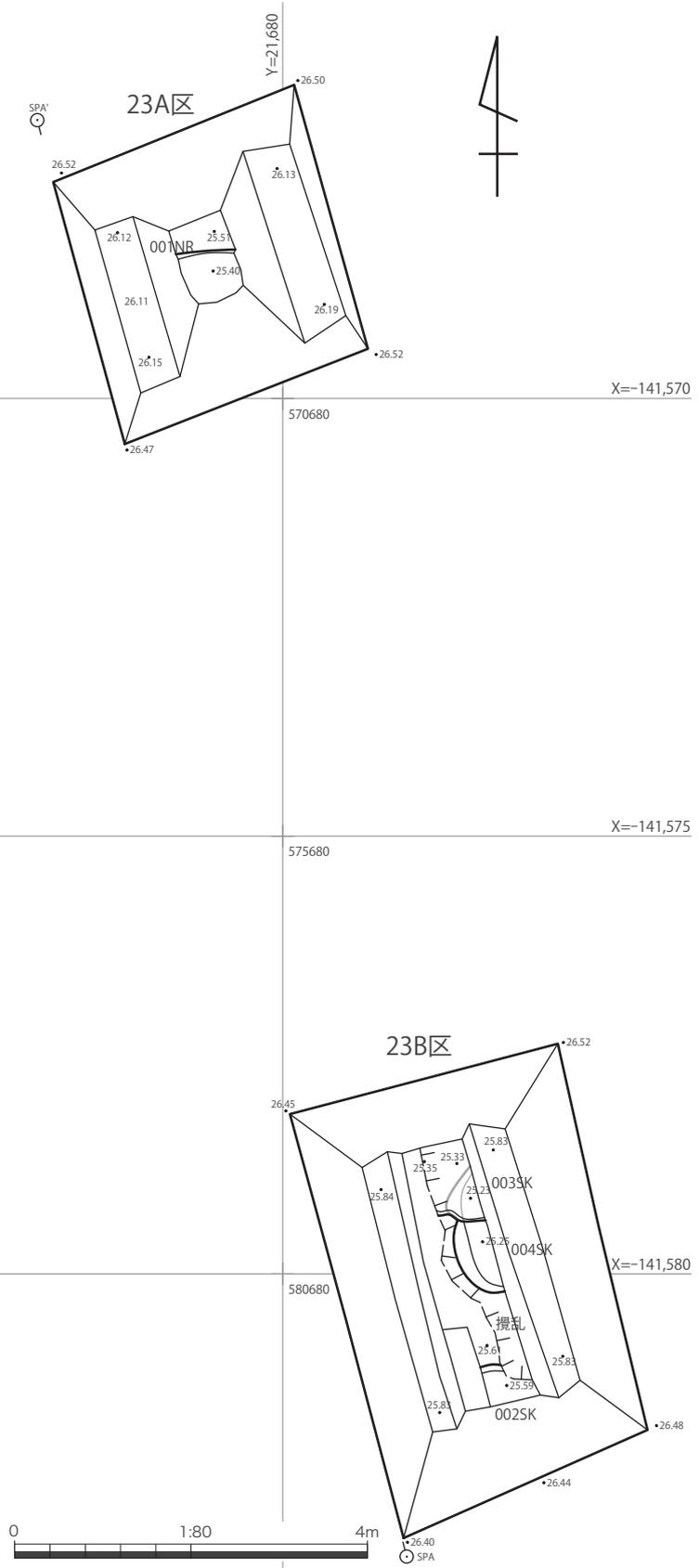


図3 浜池遺跡調査区全体図 (1:80)

調査の概要 浜池遺跡は、令和3年度に県道405号小松原街道線の街路改良工事に伴う試掘調査が愛知県埋蔵文化財調査センターにより実施され、新規の遺跡として登録された（小坂2023）。

基本土層 遺跡は、段丘面を構成する礫混じりのシルト層および粘土層を基盤層とし、基本的には約1m厚の表土を掘削してあらわれるシルト層上面で遺構が検出される。遺跡の基本土層は、宅地の造成土（1層）、耕作に伴う床土（2層）、造成土（3・4層）、地山（8-10層）となる。

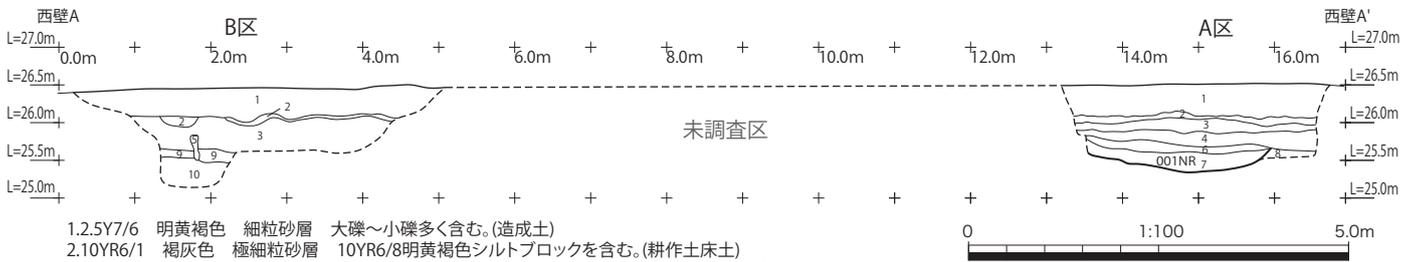
遺構 遺構は、23A区と23B区で検出された。23A区では、自然流路001NRが検出され、その埋土中から碗型鉄滓が出土した。

23B区では、土坑が3基検出された。出土遺物こそないものの、003SKと004SKの埋土には焼土と炭化物が多量に含まれていた（表1）。

遺物 遺物は、自然流路001NRの碗型鉄滓と表面採取で陶器片がある。碗型鉄滓は、コークスが付着しており、近代のものの可能性が高い。この地域では、明治時代に陸軍の練兵場があったとされており、その時代に関連する遺物の可能性がある。（田中良）

表1 浜池遺跡23A・B区遺構一覧

調査区	遺構番号	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	埋土	出土遺物
23A	001NR	565675	(0.65)	(0.6)	0.12	10YR6/4 にぶい黄橙色 シルト層 炭化木片を含む。(001NR)	碗型鉄滓
23B	002SK	580680	0.54	0.47	0.05	10YR6/3 にぶい黄橙色 シルト質中粒砂層 10YR7/8黄橙色シルトブロック、炭化物を含む。(002SK埋土)	
23B	003SK	575680	0.63	0.32	0.13	10YR6/4 にぶい黄橙色 細粒砂質シルト層 2.5YR7/6橙色焼土ブロック、10YR8/8黄橙色細粒砂ブロック、炭化物を含む。(003SK)	
23B	004SK	575680 580680	0.85	0.43	0.21	10YR6/3 にぶい黄橙色 シルト質細粒砂層 2.5YR7/6橙色焼土ブロック、炭化物多く含む。(004SK)	



- 1.2.5Y7/6 明黄褐色 細粒砂層 大礫～小礫多く含む。(造成土)
- 2.10YR6/1 褐灰色 極細粒砂層 10YR6/8明黄褐色シルトブロックを含む。(耕作土床土)
- 3.10YR6/2 灰黄褐色 細粒砂層 小礫、10YR6/8明黄褐色シルトブロックを含み、炭化物を少量含む。(造成土)
- 4.10YR5/3 にぶい黄褐色 細粒砂質シルト層 10YR8/3浅黄橙シルトブロックを含み、炭化物を多く含む。(造成土)
- 5.10YR8/4 浅黄褐色 シルト質細粒砂層 炭化物含む。(植生痕)
- 6.10YR6/3 にぶい黄褐色 シルト層 炭化物含む。(造成土)
- 7.10YR6/4 にぶい黄橙色 シルト層 炭化木片を含む。(001NR)
- 8.10YR7/8 黄橙色 粘土層 (地山)
- 9.10YR8/6 黄褐色 シルト質極細粒砂層 炭化物含む。(地山)
- 10.10YR8/8 黄褐色 シルト層 小礫、10YR8/4浅黄褐色シルトブロックを含む。(地山)

図4 浜池遺跡土層断面図(1:100)



写真1 浜池遺跡001SD出土鉄滓(表)



写真2 浜池遺跡001SD出土鉄滓(裏)



写真3 浜池遺跡遠景(西から)



写真4 23A区西壁土層断面(東から)



写真5 23B区西壁土層断面(東から)



写真6 23B区土坑003・004SK検出状況(北西から)



写真7 23B区土坑003・004SK土層断面(西から)

ふりがな	はまいけいせき
書名	浜池遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	
編著者名	田中 良
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦 2024 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はまいけ 浜池	あいちけんとよはしし 愛知県豊橋市 にしみゆきちょう 西幸町	23201	791411	34 度 43 分 25 秒	137 度 24 分 12 秒	2023.7 2023.8	110	小松原 街道線 街路改 良工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
浜池遺跡	集落	近代	土坑 自然流路	鉄滓	炭化物と焼土を伴う 土坑 2 基と鉄滓を含 む自然流路を 1 条検 出。

文書番号	発掘届出：埋文（5 埋セ第 35 号） 発掘届出：県教委（5 文芸第 470-2 号） 完了報告（5 埋セ第 60 号） 文化財認定（5 文芸第 1055 号）
------	---

要約	本遺跡は、豊橋市の東南部に位置し、三河湾へ西流する梅田川右岸の河岸段丘上に立地し、周辺には古代の灰釉陶器の古窯が多く分布する。従前の調査では、土器片が出土したが、今回の調査では遺構・遺物とも寡少であった。近代に土壤改良を受けた痕跡があり、このことが遺構・遺物がほとんど検出されなかった原因の可能性がある。
----	--